

第2次福岡市立高等学校活性化検討委員会（第2次会議）第1回会議議事録

- 1 開催日時 平成21年12月9日（水）18:00～20:00
- 2 場 所 福岡市役所11階教育委員会議室
- 3 議 題 (1) 市立高校改革に係る経緯と現状
 - ① 事務局説明
 - ② 意見交換(2) 福翔高校の活性化について
 - ① 事務局説明
 - ② 意見交換(3) 博多工業の活性化について
 - ① 事務局説明
 - ② 意見交換
- 4 出席委員 進藤委員、中村委員、是永委員、武石委員、藤本委員、葛城委員、宮崎委員、清水委員（順不同）
- 5 傍聴者数 8名
- 6 議事概要

教育長あいさつ、委員紹介、事務局職員紹介の後、委員長に進藤委員を副委員長に是永委員を選出した。

(1) 市立高校改革に係る経緯と現状について、事務局より資料に基づき説明があった。

(委員) 平成18年度に福岡女子高校を中心に議論を行ったが、その後、学校長を中心とした教職員の学校活性化の取組みにより、福岡女子高校に対する地域の評判などは大変良くなった。学校が変わったと実感している。

(2) 福翔高校の活性化について、事務局より資料に基づき説明があった。

(委員) 高資格取得が就職実績につながっていないというところを詳しく説明して欲しい。

(事務局) 生徒は事務職への就職を希望し、簿記、電卓、パソコン等の資格を取得しているが、事務職については、大学や契約社員等にシフトしており高校生への求人は少なく、事務職にはつきにくい状況がある。

(委員) 高資格とは、生徒が高いレベルの資格を取得しているという意味か。

(事務局) 検定の1級や日商簿記検定など社会的認知度の高い資格を取得しているということである。

(委員) 資格について、学校ではどこまでを目標にして生徒にチャレンジさせているのか。企業の立場から言うと、高校生が大学生と同等の資格を持っているのであれば、

人件費などの面から高校生の方がいいという考え方もできる。

(事務局) 学校としては、就職クラス生徒全員に全商の各種検定合格のみならず、さらに高位の日商簿記検定、システムアドミニストレータ、IDパスポート等を目指すという指導を行っている。

(委員) 市立高校の活性化が進んだ姿について、4校に共通なものがあるのか、または学校毎に違うのか、福翔高校の目指す姿を聞きたい。

(事務局) 学科など学校の状況が異なり、学校に対して中学生・保護者が期待するものも異なる。資料で説明した生徒の満足度が高ければ学校は活性化しているということもできるかもしれない。何を持って活性化というか、事務局としても整理しきっていない。委員の皆様から、参考になる意見をいただきたい。

(委員) 福岡女子高校については、一部学科に定員割れがあるなど、数字だけ見ると活性化していないというのかもしれないが、学校の様子、生徒の状況は大変良くなった。その意味では活性化したとっていい。

福翔高校については、大学進学にウエイトがかかってきはじめてきたようであるから、大学への進学率が上がったときに活性化したと言えるのであろう。総合学科として、何をを目指すのか整理しておく必要がある。

(委員) 学校としては、今後、どのようにしていきたいのか聞かせて欲しい。

(事務局) 生徒の進路希望等の多様化に対応して総合学科への改編を行ったが、総合学科は何でも自由であると捉えられ、進学などのいわゆる出口保障や生活面での規律の面で課題が出てきた。そのため、現在、改革のセカンドステージとして、コース制を導入し進路実績の向上を目指しており、さらに文武一道を掲げて勉強と部活動の両方がんばる生徒を育てていきたいと考えている。

(委員) 今やっていることをさらに発展させていくということか。

(事務局) このままでいいとは考えていない。次のシステムを組むことが次の活性化につながるかと考えている。

(委員) 文武一道と文武両道の違いを教えて欲しい。

(事務局) 1個人が勉強も部活動も両方ともにがんばることを目指している。これまで、推薦で入ってきた生徒の一部に、部活動だけががんばればよいというような雰囲気があった。

(委員) 総合学科に改編したが、進学実績の面での課題に対応して、改革のセカンドステージに取り組んできたと理解している。全国的に一部の総合学科にかけりが出てきていると思われるが、福翔にとっては総合学科であることが重荷になっていないかというような総合学科の必要性まで議論するのか、どこに中心をおいて議論するのか、活性化をどのようにとらえているのかをはっきりしておく必要がある。

(委員) 進学指導について、総合学科と普通科で違いがあるのか。就職内定状況が社会

情勢に左右されるのは事実だと思うが、学校で取得している資格は社会のニーズにあっているのか。

(委員) 進学指導について、大学等に進学させる手立てという意味では、普通科と総合学科の違いはない。ただ、総合学科は、生徒がニーズに沿って科目の選択を行える学科ということから、普通科より多い数の教員が配置されており、きめ細かな対応が可能になっている。

(委員) 進学について、普通科と総合学科の着地点は同じであるが、総合学科では選んだコースによって自由に科目選択ができるように教員が配置されているということか。

(委員) 普通科では、理系、文系、国公立、私立程度のコース分けは行っているが、さらに細かく分けることは難しい。福翔高校のコース制では、学校がきめ細かなコースを用意し、そのコースを生徒は自由に選ぶことができる。科目まで全く自由に選べるようにはしていない。総合学科の本来の理念とは少し違うが、福翔高校に行きたいという生徒を増やすための手立てとして、コース制を導入している。

(委員) 就職希望者に対して、課題としては上っているが、今後、どうしていくかというのが見えない。これからの方向性として、進学にシフトした高校を目指していくということなのか。時代とともに教育の在り方は変わっていくものと思うが、福翔高校の歴史を考えたとき、高校卒業後に就職を希望する者がなくなるとは考えられない。

(事務局) 従来、福翔高校は商業科を有し、就職指導に関するノウハウを持ち実績を上げてきた。中学生や保護者からも期待されている。

(委員) 資格を持つことが就職につながっているのか。

(事務局) これまで、ほとんどの生徒が資格を持って就職しており、それが好実績につながったと考える。コース制のメリットとして、就職希望者に対して1年次から資格取得のための学習ができ、高位の資格取得を目指すことができる。ただ、今の厳しい就職状況の中で、高位の資格取得が就職にむすびついていないということができる。

(委員) 今は、パソコンに関する資格などの方が、就職に有利ではないのか。

(事務局) パソコンに関する資格などは基本的な資格であり、専門高校のほとんどの生徒が持っており、それだけでは就職における勝負はできない。日商簿記などの高位資格を持っていることはかなり有利である。

(事務局) 最近も2名ほど公認会計士になった卒業生がいるが、基本的には学校における学習の中で、目標を持たせて指導してきた。

(委員) 簿記検定には高校の校長会が主催する検定と、一般の人も対象にした日本商工会議所主催の日商簿記の検定がある。日商簿記は権威があり、パソコンも扱うことができれば、仕事にすぐに役立つ。就職後、経理などの経験を積めばよい。福翔高校だけでなく、その他の高校でも、就職を希望する生徒には、高位の資格取得など目標を持たせることが大事で、それが、就職の実績や学校の活性化になる。

(3) 博多工業高校の活性化について、事務局より資料に基づき説明があった。

(委員) 類コース制に関する生徒アンケートについて、最終的に、生徒は希望した学科に入れたのかどうかデータを示して欲しい。それがあれば、類・コース制がいいのか学科に分けた方がよいのか見えてくる。

(事務局) 次回までに準備する。

(委員) 新しいふくおかの教育計画の成果指標の中に、市立高校の生徒を対象とした進路希望の実現に対する満足度というのがあり、博多工業では各項目が75%、80%、90%、85%と4校の平均の73.6%よりも高く評価され、目標値の85%を達成しているといってもいいのではないか。大人が心配するほどのことではなく、進路希望の実現に関しては生徒は満足している。

(事務局) 博多工業については、高い満足度になっている。学校毎に見た場合、より高い満足度まで上げていくということは考えないといけない。また、何をもって学校の活性化というかということも考えないといけない。

(委員) 活性化した姿のイメージが、4校とも同じなのか学校によって違うのかによって、この後の話し方が変わるのではないか。

(委員) 福翔高校の満足度も76.9%と高い。博多工業高校の類・コース制については、教育課程の共通化の困難な面や学科への生徒の帰属意識が薄れたなどの課題があり、さらなる改革が必要であるということだが、課題と解決の方向性がはっきりわからない。例えば、就職者が70%もいる状況で進学も視野に入れた教育の推進を保護者や生徒が望んでいるのかどうか。

市立高校は福岡市民の身近な高校として長い歴史を築いてきた。博多工業高校に行けば、知識や技術を身に付けて就職ができ、福翔高校に行けば、商業などの知識を学んで事務系などへの就職ができるという感覚がある。近年、高学歴化が進み、生徒も上級の大学に行きたいというような希望が出てきた。今、社会環境が変わってきて高卒も大卒も就職状況は大変厳しい。

ここでは大きな議論をするのではなく、学校の課題を捉えて改革の方向性を見た方が意見を言いやすい。

(委員) 課題を解決する方法を考えるとということであれば意見が言える。

(委員) 全体の活性化について意見を出しあっても、限られた資料の中では、自分の感覚と私見でしか言えない。今、学校がかかえている課題に対して意見を出していきたい。

(委員) 学校を応援したいということで話したい。博多工業高校を2回見学したが、思っていた以上に生徒は一生懸命やっていた。さらに活性化するために、生徒指導を安定させ学習意欲を高めるために、生徒のプライドを上げることが大切である。福岡農業高校を見学して、生徒が食品の開発・販売を行い、地域と連携するとともに地域へ貢献し、それらを認められたことにプライドを持つようになったということを知った。博多工業でも作品を製作しており、地域と連携した活動をいれたらいいのではないか。

(委員) 課題解決の方向性の中にあるインターンシップや社会人講師の活用などについて

て、現在、どのように実施しているのか。

(事務局) インターンシップについては、2年生の190名程度が市内77の企業で実施しており、ほとんどが2～3日間程度である。学習指導要領では長期間のインターンシップが求められており、2～3日では少ない。社会人講師や出前講座も、それほど多くはないが実施している。